

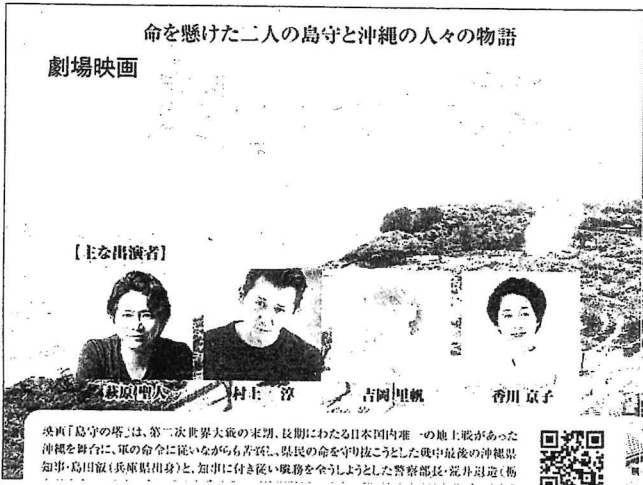
沈黙に向き合う

沖縄戦聞き取り47年

(108)

石原 昌家

援護法関係で沖縄戦中の島田徹知事に前回ふれた直後、第32軍司令官のもと沖縄戦中の知事と警察部長を中心に描いた映画「島守の塔」の試写会へ、制作にかかわった新聞社から招待され、コメントも依頼された。私は、若い世代が沖縄



映画「島守の塔」の広告

命を懸けた二人の島守と沖縄の人々の物語
劇場映画

【主な出演者】

藤原竜也 村上淳 吉岡里帆 香川京子

映画「島守の塔」は、第二次世界大戦の末期、長期にわたる日本国内唯一の地上戦があった沖縄を舞台に、軍の命令に従いながらも善悪し、県民の命を守り抜こうとした戦中最後の沖縄県知事・島田徹(兵衛樹造)と、知事に付き従い職務を全うしようとした警察部長・荒井道彦(橋)

知事「訓練提案」に驚き

歴史修正主義を正す④ 県政基本は「ぬちどろう宝」

「生きる！」
沖縄戦から77年も経過しているが、その体験を語り継ぐことができる人は残り少ない。次世代へどう伝えていくのか、それが課題になっている。それが出来る一つの方法が沖縄戦の劇場映画である。とはいえ、それはどのような視点で制作されているかが問われる。次世代に

歴史修正主義を正す④

だということ、知事をなす「軍国少女」を、知事は必死に大声で「投降勸告」したのだ。
私が「軍国少女」こと山里和枝さんから聞き取りした場面は、糸満伊敷の轟の壕が奥平壕として使用されているとき、日本軍の二団がその壕から立ち退きを命じたり(隈崎俊武遺稿)避難している老幼男女の食糧

どのような問題意識が生まれるだろうか、という観点で試写会に臨んだ。
映画を観て一週間ほどたつたいま、島田知事が部下の「軍国少女」に必死の形相で「生きる！」と大声で叫ぶ場面が、しきりにまぶたに浮かんでくる。軍と「官民」共に生き、共に死ぬようにと指導するものになつてきた知事が、これもあつたに敵に「投降して生きる」とはいつたし何事

「ぬちどろう宝」は、2021年3月に上映開始され、DVD化された。日本軍に知られたら即座に銃殺されていなくてはならぬ場面だった。当然、山里さんには日本兵に聞こえないように「小声」で投降するようにつづいては、24日にロシア軍がウクライナ侵攻をしたその直前、ロシア軍の大軍事演習の二ニュースがしきりに流れていた。演習の後に実際の戦争が起きることを、私は沖縄での官野瀧嘉数と浦添城下での軍事演習が、後の沖縄戦をつくりだした実例をあげてきた(「浦添市史」第2巻参照)。いま、南西諸島一帯での日米軍事演習の激化は、沖縄戦前の軍事演習の比ではない。ロシアの大軍事演習の続きのようにつづいてきたウクライナでの実戦が、南西諸島で、いつ勃発しても不思議でない、尋常と直感した」と語り「神奈川では実際にこういう事をしている」と話し、四軍調整(7月15日)には「災害発生目録」で有事訓練/米軍・自衛隊参加/玉城知事「必要」の見出しのもと「米軍や自衛隊を交えた都道府県主催の大規模災害訓練、通称「ビッグレスキュー」の沖縄開催について(玉城知事は「必要だ」との認識を示した。神奈川県の事例を踏まえ、在沖米軍トップの四軍調整官に提案する考えを示した)。(黒岩(神奈川県)知事は玉城知事の会談で「災害と有事を一体で取り組む事で、実質的な防衛訓練もできる」と語った。災害対応という名目で軍民混在の訓練機会を設けながら、実態は有事を意識している点を示唆した)。(黒岩知事は米軍の陸海空軍と一緒に訓練をしている事に米軍司令官が驚いていた事も明かした。玉城知事は黒岩知事の話にうなずき「みんな集まって実践訓練をするのは本当に貴重な機会だ」と話した。会談後の取材に「米軍内で異なるマインドをすり合わせる

(次回17日掲載)